

学校编码: 10384

分类号: _____ 密级: _____

学号: K1003008

UDC: _____

厦门大学

硕士学位论文

从流行语看现代中日社会文化特质 ——以2013年流行语为主要研究对象

流行語から中日現代社会の文化特性を見る
——2013年の流行語を主要な研究对象とする

白琳

白琳

指导教师: 陈端端 教授

指导教师姓名: 陈端端 教授

专业名称: 日语语言文学

论文提交日期: 2014 年 月

论文答辩日期: 20 年 月

学位授予日期: 20 年 月

厦门大学

答辩委员会主席: _____

评阅人: _____

20 年 月

从流行语看现代中日社会文化特质——以2013年流行语为主要研究对象

厦门大学博士学位论文摘要

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

社会と経済が急速に発展する今日において、新しい出来事と考え方の出現に伴い、それと呼応する新しい表現と語彙が出回り、いわゆる流行語が生まれてくる。流行語は、ある期間中において広く注目される問題や出来事を反映し、一般に認められた社会文化の言語表現である。特にインターネットが発達している時代では、情報伝達の早さ、方向、範囲と方式が今までと大きく変わってきて、社会の深層を理解する手段の一つとも言える流行語の研究が人々の関心を呼ぶようになった。このような事情を踏まえ、本論は中日両国それぞれの2013年流行語を観察し、各自の特性と両者の共通性を探りながら、流行語の背後にどんな社会文化特性があるのかを分析すると同時に、流行語の相互翻訳を通じて、相互認識に資するルートを見つけ、両国間の文化理解と交流を深めることに寄与することができればと考えている。

本論は五章から構成されている。まず、序論においては、本論の問題を提起し、研究目的と研究対象、研究方法を述べる。第二章においては、中日両国が同じ時期の流行語語彙の対比を通じて、政府行為、社会認知度と影響力などの面に着目し、各自地域文化に含まれる共通性と特性を探ってみたい。第三章においては、主流メディアの用語を参考に、言語の表現慣習と民衆の認可を踏まえ、相互翻訳の方式で適切な文化相互翻訳方法を探る。第四章においては、流行語の生まれる条件と流行語からの啓発について述べる。最後の結論の部分に、本論の内容をめぐって、現代流行語が反映する社会の文化特性から文化交流の意義を考えてみる。また、今後の研究課題を提出する。

キーワード：流行語 中日 社会文化 特性 認識

摘要

随着社会的发展，经济的活跃，涌现出了大量的新事物、新观念，于是人们采用新的表述方法、即新的词汇去表达，由此产生了所谓的流行语。流行语，反映了一个国家或地区的人们在一定时期内普遍关注的问题和事物，是使用者普遍认同的社会文化的语言表现。特别是在网络发达的当今，那些涌现出的大量新词汇，在传播速度、传播方向、传播范围和传播方式上均发生了巨大的改变。可以说，对流行语的研究越来越受广泛的关注。本文以中日两国的 2013 年流行语为观察对象，在寻找他们的共性与特质的同时，了解蕴藏在各自流行语中的社会文化特质，并尝试采用互译方式寻找合适的文化互译方法、相互认识的途径，以期加深两国间的文化理解与交流。

本论由五个章节构成。首先在绪论中提出本论的研究问题，并阐述研究目的、研究对象和研究方法；第二章中，通过中日两国同一时期流行语词汇的对比，从政府行为，社会认知度和影响力方面折射出蕴含在各自地域文化中的共性与特质；第三章以主流媒体用语为参考，结合语言的表达习惯和民众普遍认可度，采用互译方式寻找合适的文化互译方法；第四章对流行语的产生条件和带来的启发进行了阐述；在最后的结论部分里，总结本论的内容，从现代流行语反映的社会文化特质中思考文化交流的意义，并提出今后研究的课题。

关键词：流行语 中日 社会文化 特质 认识

目次

第一章 序論	1
1.1 問題の提起と研究目的	1
1.2 研究対象と研究方法	1
1.3 先行研究	2
第二章 流行語に潜まれる社会文化特性.....	4
2.1 流行語.....	4
2.2 流行語の土壌	5
2.3 流行語の社会文化特性	10
第三章 相互翻訳における社会文化特性の再現.....	15
3.1 翻訳可能	15
3.2 翻訳不可能	23
第四章 流行語からの啓発	34
4.1 流行語の社会的条件	34
4.2 流行語から見られる中日社会文化特性.....	34
第五章 結論	37
参考文献	38
謝辞	40

目 录

第一章 序言	1
1.1 问题提出与研究目的	1
1.2 研究对象与研究方法	1
1.3 研究综述	2
第二章 流行语中的社会文化特质折射	4
2.1 流行语	4
2.2 流行语的土壤	5
2.3 流行语的社会文化特质	10
第三章 对译过程中的社会文化特质再现	15
3.1 可译的方式	15
3.2 不可译的对策	23
第四章 流行语的启示	34
4.1 流行语的社会条件	34
4.2 从流行语看中日两国的社会文化特质	34
第五章 结语	37
参考文献	38
致谢词	40

第一章 序論

1. 1 問題の提起と研究目的

流行語は潮流用語（潮語と略称される）とも呼ばれ、一定の時期内に、ある国または地区で広く注目される問題や出来事を反映し、民衆の共感を呼んでいる語彙である。流行語の最も重要な要件は流行することで、ある時期における使用頻度が非常に高いことが特徴である。流行用語を観察しながら整理することによって、縦方向では当時社会の発展趨勢を正しく認識し、横方向では異民族と異文化の間の理解を深め、交流と協力を促進することができる。

中国も日本も毎年、当年流行っている語彙から、使用頻度が高く、かつ社会情勢などを反映する意義を持つ語彙を選出するイベントが行われている。本論は同じ時期の両国の流行語を比較・整理することで、両国社会文化の共通性と特性を分析するとともに、相互翻訳の方式で、相互認識に資するルートを見つけ、両国間の文化理解と交流を深めることが目的である。

1. 2 研究対象と研究方法

言語の使用状況がその時期の社会文化または社会問題の縮図であると言われる。本論は2013年両国で公式に選ばれた流行語トップ10を主要研究対象とする。日本側は2013年12月2日に「新語・流行語大賞」が発表された四つの年間大賞「今でしょ!」、「じぇじぇじぇ」、「倍返し」、「お・も・て・な・し」と六つのトップテン「アベノミクス」、「ご当地キャラ」、「特定秘密保護法」、「PM2.5」、「ブラック企業」、「ヘイトスピーチ」。中国側は19日に《咬文嚼字》編集部が発表された年度流行語TOP10「中国梦」、「光盘」、「倒逼」、「逆袭」、「微××」、「大V」、「女汉子」、「土豪」、「奇葩」、「点赞」。また、より全面的な分類整理と比較分析ができるように、ホットな候補語彙及びインターネットで広く使われる顔文字と造語も研究対象として取り入れる。

本論は情報研究法を主としながら、比較文化学の研究法も採用する。具体的

には、流行語の主要伝達媒体とルートであるインターネットから関連情報を収集・整理してから、比較文化学の方法で両国の社会文化の共通性と特異性を分析し、相互翻訳の手段で相互認知の可能性を探るなどのステップを踏んで研究を進めることにした。

1. 3 先行研究

今まで収集した資料から見れば、日本では流行語についての研究は、流行語発生の理由、特に社会と人間心理の面から検討するのは多い。稲垣吉彦(1982)「現代の新語・流行語」では、社会世相を批判的意味をもって、流行語の四つの特質をまとめた。米川明彦(1989)「新語と流行語」では、明治以後百年間の新語・流行語を発生理由と語の形態、語の違和感、語の普及性など四つの面から探って、その発生の理由として社会の状況と世相、風俗も検討した。安本美典は「流行語の社会的・心理的要因」(1997)において、流行語の音韻、構造と人間の心理要素を結び付けて研究した。吉田光浩は「流行語研究の諸問題(上)」(1999)において、流行語研究は最も社会・風俗・文化の諸側面と密接し、その言語の領域に入れて研究を進める必要があると指摘している。金田一秀穂は「金田一先生の日本語教室 現代語・新語・古語と辞典(3)」(2005)では、人々(特に若者)が流行語が使う心理的原因を説明し、若者がはっきりしない言葉を愛用する原因も明らかにする。また一方、語の構成と表現の角度から分析するのも少なくない。辻村敏樹(1992)は「言葉のいろいろ」という本では、新語・流行語の作り方について六つに分けて検討した。湯浅茂雄(1997)「生まれることば 死ぬことば」では、造語面から流行語の作り方を三つにまとめた。糸井通浩は「流行語の修辞・造語法」(1997)において、略語・接辞の取換えとの造語法と比喩の修辞法を分析し、流行語の目新しさと言いやすさを指摘している。多門靖容の「流行語の分野」(1997)では「新語・流行語大賞」第1回から12回まで取り上げられた言葉を例にとり、各分野での比喩表現の運用について考察している。窪菌晴夫(2002)「新語はこうして作られる」では、語構成論の立場から流行語の作り方と意味変化に立ち入って考察し、言語学の法則や原理を解き明らかしている。

中国でも中日流行語についての研究は行われている。主に若者言葉と社会心理、翻訳の面から検討している。徐晨の修士論文《流行语与社会文化心理嬗变研究》(2006)では、言語学の角度から、中日の社会心理変化をまとめ、さらに、新世紀に中日両国の流行語を比較することによって、両国社会と文化の共通点と相違点を明らかにしている。梁麗娟(2010)《中日新语流行语的翻译》では、文化交流のため、相互翻訳の方式を研究している。余文震の修士論文《中日两国语言中流行语的比较研究》(2011)では両国流行語の特徴を比較し、時代の動きが流行語の発生にもたらした影響を考察している。

先行研究の研究分野は主に言語学と社会学、翻訳学それぞれの視点から流行語を分析するもの、流行語の造語法と流行語の発生理由、訳し方などに集中している。流行語の特質から見れば、流行語は時代を映す鏡とされている。流行語の研究を通して、社会の流れや深層文化を知ることができる。筆者は中日両国の同時期に生まれた流行語を比較し、その異なる地域文化における共通点と相違点を分析した上、文化認知の角度から流行語の相互翻訳方式を試み、現代流行語が反映する異文化交流の意義を考えてみる。

第二章 流行語に潜まれる社会文化特性

流行語は、極めて強い時代性と社会性があるため、地域や文化の違いに関わらず、人類活動に共通する状態と風貌を示す一方、違う地域や文化の特徴も鮮明に反映している。本章は、中日両国流行語の現状から、流行語がどれほど重視されているか、社会にどんな影響を及ぼしているかを調べる。そして、同じ時期の流行語語彙の対比を通じて、政府行為、社会認知度と影響力などの面に着目し、各自地域と文化に含まれる共通性と特性を探ってみたい。

2. 1 流行語

流行語とは流行した語（単語、言葉）やフレーズである。^①特定の時期にある地域で広く注目されることを反映している。中国では、改革開放の進展に伴い、新しい考え方と出来事が次々と現れる。親の時代で激しい政治と経済の変革があって、当時の政治、社会と経済情勢を反映する流行語は親の時代の人々が栄光な過去を回想する合言葉のようなものになっている。前世紀 90 年代、コンピューターの普及とネットワークによる通信技術の発達に伴い、情報伝達のルートと方式が大きく変貌した。現在、インターネットを通じて、国や言語の制限を超えて、世界中の人々が新鮮な情報を瞬時に共有することができるようになった。近年、各主要マスコミとネットワークサイトから、流行語ランキングが続々と発表され、うち多くの語彙は民間に伝え、国外の新語彙として収録されるものも少なくない。中国には、1995 年創刊の《咬文嚼字》という雑誌があり、メディアや作品の語彙や文字の誤用や間違いを指摘することで、中国国内漢語文化品質の守護神として有名である。この雑誌は 2008 年から毎年、流行語トップ 10 を発表し始め、強い専門性と広い影響力を有することで、国家言語監督機構による流行語選出の重要根拠とされてきた。

日本の流行語は前世紀 3、40 年代から盛んになり、新語彙が毎年誕生し、時

^① 流行語. ウィキ百科事典. ja.wikipedia.org/wiki/

代の移り変わりのなかで、存続するか消滅していく。80年代になると、一部の学者が流行語を研究しはじめ、流行語は簡潔で鮮明な意味合いを持つことで益々一般大衆の間で共鳴を呼び起こすようになった。1984年、自由国民社が「新語・流行語大賞」を設立し、毎年12月の最初の業務日に、当年の新語と流行語を発表する。1987年～1990年、特別賞も設けた。1991年以降、年間大賞と各部門の賞を設け、1994年から現在まで、新語部門と流行語部門が合併して、当年の年間大賞とトップテンを選出し発表した。これらの受賞流行語や新語は、現在も存続して使われるものもあり、その生命力の強さが証明されている。2013年11月行われた30周年記念イベントで、当該大賞が始まって以来、最も時代象徴的な意味合いを持つ10大語彙を選出し、歴史を振り返ると同時に、人々に時代から何かを勉強するよう警鐘を鳴らした。

では、中日両国の流行語はどのような風に出現したのか、中日両国ではどういう共通点あるいは相違点があるのか、そこから何が見られるのかは本章の注目である。

2. 2 流行語の土壌

2.2.1 時代の背景のもとで生まれた政治産物

流行語は環境と社会の変化と係わりがある。グローバル化しつつある現代においては文化の交流が盛んになっているので、各国ではお互いに共通しているところが多くなってきた。2013年の中日両国の流行語トップ10には、当時の時代背景と密接に関連する政治性語彙が含まれている。国の事情が違っても、一定の地理管理区域内の人類活動は必ず行政管理当局と何らかの関わりを持っており、この関わりは上から下に対する管理もあれば、下から上に対する監督もある。流行語に含まれる政治性語彙から、当時政府の決定の社会における反響を知ることができる。

中国では、まず挙げられるのは「中国夢」という語である。新一期政府が掲げる豊かで、強くて、民主文明と調和した社会主義現代化国家を建設する目標と自信の現れである。この語彙が注目されるのは、政府が中華民族の偉大な復

興を呼び掛け、それを実現するために、非常に難しい変革を遂行しなければならないからである。中華民族の偉大な復興は全ての中国人の夢であり、注目されてホットになることは人々がその実現を熱望していることを裏付ける。次に、「光盤」と「倒逼」の2つの語も、政治行為が民衆の注目を呼んだ例である。「光盤」は北京の民間公益組織が提唱した一種の運動であり、外食したとき、残した食べ物を家に持ち帰るよう呼び掛けることである。個人行為に関係するものに見えるが、政府が幹部に対して提唱する節約奨励、浪費反対の号令と呼応しているため、「光盤活動」はたちまち全国に広げ、「光盤」という語も洒落な語彙とされるようになった。「倒逼機制」という語は、とくに経済政策に関して使われたが、今期政府が全国経済の取り組みを説明するなかで2回使用し、ボトムアップ方式で、実践から改革要求を生み出すことを強調したため、ネットユーザに愛用されるようになった。この語に関して賛否両論がある。方式自体の合理か否かはともかく、いい結果が出ればいいのではないかと賛同する人がいる一方、受動的で消極的な措置で、評価に値しないと一蹴する反対者も多くある。

一方の日本では、「アベノミクス」という語は自民党政治家安倍晋三が打ち出した一連の経済政策の略称したもので、安倍という苗字と経済学という英語をミックスして作られた語である。この経済政策が最も注目されるのはゆとりな貨幣政策であり、「株高」や「円安」に集中している。その効果によって、投資家だけでなく企業も一般のビジネスマンも、「日本経済の復活がいよいよ始まった」と沸き立っている。でも、反対の声が多く存在している。その中で、「アホノミクス」という語を作った同志社大学大学院ビジネス研究科教授の浜矩子氏に注目を集めている。浜氏はこの政策に対して、反対の態度を明確にして、現在の「好景気」の裏に「罨」が潜むと思う。「結局のところ、この政策で恩恵を受ける個人は、差し当たり株や不動産を持っている人。つまり、ごくごく一部の富裕層だけということになります。」^①それによって、アベノミクスという語が選出されたとき、なぜアホノミクスが入選できないかとの意見もあり、政策見解の違いが流行語にも反映している一例である。「特定秘密保護法」

^① 「アホノミクス」が5つの悲劇を引き起こす! 浜矩子がアベノミクスに反対する理由. 東洋経済. 2013-05-24

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

廈門大學博碩士論文摘要庫